

研究情報の入手いま昔

児島昭次

近年、科学のめざましい進歩により、各学問分野も益々多様化し、それに伴い情報量は著しく増大している。このような状況下で我々が研究活動を行くためには、膨大な量の情報の中から研究に必要な情報のみを検索・抽出し、それを保存する必要がある。

私の若い頃の研究情報の入手では、情報量も比較的少なかったこともあり、二次文献から必要な情報・資料を検索するのはそれほど難しいことではなく、むしろそれを保存するための複写で苦勞したものである。学生時代には、鉄筋建築の書庫の薄暗い片隅で、文献情報をノートにせっせと書き写さなければならなかったし、空調設備のない当時としては、特に夏や冬の季節における筆写は苦痛な仕事であった。

昭和30年頃になると、研究室に一眼レフカメラが購入されたため、写真複写により文献情報が入手できるようになった。この複写法は、低感度フィルムによる文献の撮影、現像によるネガの作成、印画紙への焼付という手順で行われ、手書きの頃にくらべればかなりのスピードアップであった。しかし、経済的理由から、複写サイズを原寸の $\frac{1}{2}$ から $\frac{1}{4}$ 程度に縮小するという、現在では考えられないことがしばしば行われた。その当時得られた文献資料の貴重さが忘れられないせいか、今でもそのいくつかが研究室の書棚に大切に保存されている。また、このような文献の写真複写を通して、写真の原理を理解し、通常のスナップ写真やスライド写真などを作成する技

術を取得できたということも思い出として残っている。

その後、複写技術も著しい進歩を遂げ、湿式の青焼き複写から、乾式のネガ・ポジ複写、そして現在のゼロックスに代表される複写へと進み、今日ではその複写技術が迅速、簡便、安価に利用されるようになった。また、学外にある文献等については、国内大学図書館等に設置されている高速ファクシミリの利用により、これまで多くは郵便に依存していた研究資料の複写物を短時間内に電送によって入手することも可能である。

一方、科学の進歩に伴い各専門分野の情報量も飛躍的に増大し、その中から本質的に必要な情報を検索することは次第に難しくなってきたが、二次文献の整備やコンピュータの発達等によりそれが解決されつつあるようである。これまで継続してきた研究に関する情報は従来の方法により検索することもできる。しかし、これから始めようという新しい研究の場合には、学術情報ネットワークを利用することにより、研究室や図書館に設置されている専用端末パソコンから国内各大学の各種文献等に関するデータベースや商業データベースの検索を行い、収集された情報を基に研究計画を策定することができる。また、最近、学内図書館に導入されたCD-ROM（読み出し専用記憶装置）を利用することにより、研究情報を入手することができる。さらに、将来は国際的な学術情報ネットワークも積極的に利用されるようになるであろう。

今日の高度情報化社会の中で、大学図書館として整備すべき新しいタイプの業務として、情報仲介サービス（図書館職員によるデータベースの代行検索）や情報伝達サービス（電子ボード利用による図書、データベース内容等の案内、電子メール利用による図書の購入・借用、文献複写受付等）があげられてい

る。このような図書館業務の実施には、種々の業務に精通した職員の確保と施設の整備拡充が必要なことは言うまでもないことであるが、近い将来、研究者が上記のような図書館業務を利用できる日が来ることを期待したい。

（薬学部教授 衛生薬学）

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介3

重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)

工藤敬一

(3) 後醍醐天皇綸旨 二通 (原本写真を表紙に掲載, 原文解説を4ページに掲載)

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>阿蘇大宮司館 十一月廿八日 左少弁 (花押)</p> | <p>天氣如此、悉之、 軍忠者 一族、發向鎌倉、可致 間、所被追罰也、相催 以下輩、有反逆之企之 足利尊氏同直義</p> | <p>[2]</p> <p>「建武二年」 十一月廿五日 右中將 (花押)</p> | <p>[1]</p> <p>足利尊氏同直義已下 輩、有反逆之企之間、所被 誅罰也、阿蘇前大宮司 惟時令發向鎌倉、司致 軍忠者 天氣如此、悉之、 (異筆)</p> |
|---|--|--|--|